

・工学部からの挑戦

メキシコプログラムは過去農学部と地域学部の学生が主な対象で、工学部の学生が1年生から4年生までをストレートに進学して卒業する上で、カリキュラムに問題があり、参加が非常に困難でした。主な理由として、大学4年生は卒業論文を書かなければならない上、論文の作成には非常に時間と労力を必要としてしまうためです。でも、実際のところ一生懸命物事に取り組んでい



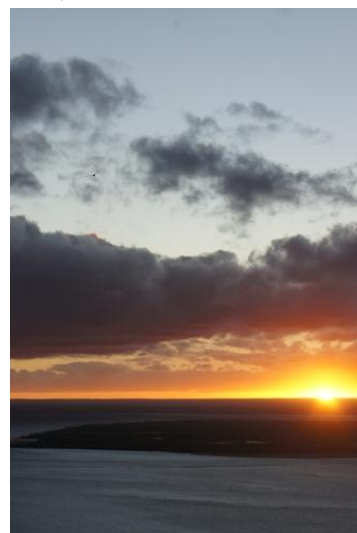
れば活路が見えてきてうまくいくもんです。そうだと信じています。実際今までそうなってきました。今回も同じでした。でも、なぜかメキシコプログラムは今まで工学部からストレート進学して行った人はいませんでした。正直これはチャンスだと思いました。なぜなら自分が今まで生きてきて人と同じようにして一般路線を歩むことからやめたかったからです。特に大学に来ていろいろな心境の変化がありました。部活で汗を流して友達と朝まで遊んで... 楽しい日々でしたが、それがいつまでも続くわけではなく3年生から始まる就職活動、卒業論文と乗り越えるべき壁は大学生活の中には想像以上に多かったです。高校の先生に一生勉強は付きまってくる言われた意味が最近分かった気がします。大学生が一番楽しいというイメージも同様に変わってきました。今は大学生ってやる気があれば何でもできるから楽しいというイメージです。



今回のメキシコプログラムは自分への挑戦が大きいです。対外的に見れば大きなアクションだったのではないかと思います。カッコいいことを言えば工学部からはメキシコプログラムに参加することができないという固定観念を覆したことになるからです。それに中間発表を、ネットワーク回線を使ってメキシコから行ったのでこれも工学部初の試みでした。いろいろ過去事例のないことをやりました。いわゆる、歴史を作った的な感じです。

響きはカッコいいです。でも、やっぱり新しいことをするのはしんどかったです。メキシコ実習やメキシコプログラムのメンバーやメキシコの友達との食事がすごく楽しかったのに、一人中間発表の資料作りを学生寮で行うというちょっと悲しいことがときどきありました。でもそれは結局3カ月の中の1週間くらいでした。食事に呼ばれた時にそれを断るのはつらかったですけど、終わってしまえばもう気になりませんでした。

ともかくにも、これを読んだ人で、言ってみようかなと思う人が工学部からであれば本当に幸いです。メキシコプログラムは全学共通プログラムなので、医学部の先生から工学部までのいろい



ろな先生がフィールドワークで授業を行ってくれるので、メキシコでの授業は問題ありません。メキシコの友達もたくさんできます。しかも、なんとフィールドワークの一環でアシカやジンベイザメとも泳げます！これ必見です！

全体的に、鳥取大学の工学部の人へのメッセージ性がかなり強い文となってしまいました。でも、これは体験談ですが、チャンスが目の前にあれば飛び付くことをお勧めします。工学部は学部生の段階ではなかなか留学の機会がありません。特に工学部！英語が少しできればたぶん問題ありません。それと、留学は決して経験としてマイナスには絶対には働きません！

最後に、メキシコメンバーやメキシコの友達、いろいろな分野を教えていただいた先生方、本プログラムに携わった方には本当に感謝しています。また、私の所属していた環境計画研究室の先生や友達へもです。本当にありがとうございました。

